

分科会 No. 3 (公共図書館)

<頑張っています！小規模自治体の図書館>

司 会 朝倉久美 (野沢南高校)

記 録 油井純夫 (南牧村図書館)

小さな自治体の図書館は地域的に離れていたり、職員数が限られたりしているため、お互いの情報交換をしにくい事情がある。またそれぞれの図書館の活動や工夫も伝わりにくい。3つの図書館の事例発表のあと、グループ討議を行い、これからの図書館活動に役立てるため情報交換を行った。

小さい自治体ならではの図書館の活動の工夫や苦勞について3名の方に事例発表をしていただきました

①平中和司さん(大桑村図書館長)

防災の機能を持たせた役場の新築に合わせて設置されたため、安全性の高い場所にあるが故に人が来ない不便な場所にある。

「地域の人々をつなぎ、豊かな知の世界につながる広場になること」を目指して活動しています。



②畠山 雅さん(佐久穂町図書館)

昨年度開館20周年を迎え、記念缶バッジの作成やオリジナル図案の型染めバッグづくりを行った。

そのほか図書館に両親が来るきっかけづくりになるようにいろいろな企画展を行っている

移動図書館(1100冊)を使って遠隔地や、町内の高齢者施設や保育園などにも本を届けている。



③藤森絵美子さん(小海町図書館)

今年会館10周年を迎え、町の図書室から図書館に代わっても。読書活動を推進し、知識・情報の拠点、地域の活動拠点となるよう活動している。

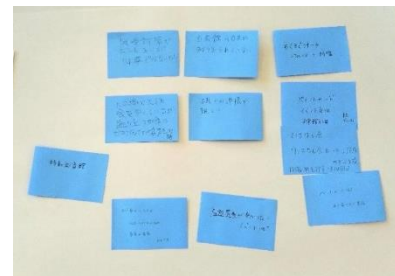
最近は連携・協力活動に力を入れており、小海町高原美術館や他部署が行っている事業テーマを共有した企画展示などを積極的に行っている。

2 討議の概要

グループに分かれて小さい規模の町村図書館ならではの活動や工夫、苦勞していることなどについて自由に情報交換を行いました。

◎活動や工夫

- ★ポイントカードの導入 ★移動図書館
- ★保育園に出向く ★ぬいぐるみお泊り会
- ★高齢男性向けイベントの開催
- ★ボランティアの協力による工作教室
- ★移住の方へ向けた図書館の紹介
- ★遊べながら本が読める空間 ★読書以外の活動をしている地域の団体とのコラボ
- ★夜の図書館を楽しむイベントの開催
- ★障がいのある方も高齢者も楽しめることができる図書館にしたい



◎苦勞していること、悩み

- ・図書館の存在があまり知られていない ・利用者の固定化している
- ・中学生までは利用してくれるが高校生になると利用しなくなる
- ・中高年層(特に男性)の利用が少ない
- ・イベント参加者がいつも同じ ・学校との連携が難しい

などたくさん意見が出されました。

3 まとめ

共通した苦勞や悩みをもつ図書館の現状について情報交換ができてとても有意義な時間であった。本の魅力を少しでも多くの皆さんに伝えるため工夫しながら活動されていることが窺われ、活発な意見交換が行われていた。時間の都合もあり、出された意見についての議論はできなかったが、ワークショップを通じて共有したものを持ち帰り、小さな自治体の図書館だからこそできる強みを生かして明日からの図書館運営に生かしてきましょう！